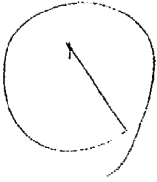


公開実用 昭和52—

125962 U

1977-09-24



実用新案登録願

昭和51年3月17日差出

昭和51年3月16日

特許庁長官殿

1. 考案の名称 ^{フリガナ} ^{カ ケシキヘ}
替え毛式歯ブラシ

2. 考案者

^{フリガナ}
住所 (居所)

(実用新案登録出願人に同じ)

^{フリガナ}
氏名

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

^{フリガナ}
住所 (居所) ^{ミナミサイタマクンシラオカマチオオアザシモオオサキ}
埼玉県南埼玉郡白岡町大字下大崎 1 3 6 3

^{フリガナ}
氏名 (法人にあっては名称)
および代表者の氏名

^{ヤマ}
山

^{ギン}
岸

^{シゲル}
茂



4. 添付書類の目録

(1) 明細書

1 通

(2) 図面

1 通

(3) 願書副本

1 通

(4) (

通

51 031994

52-125962

明 細 書

1. 考案の名称 替え毛式歯ブラシ

2. 実用新案登録請求の範囲

手動式歯みがき用歯ブラシに於て、握り部と植毛部とを分離した構造とし、握り部に対し、植毛部が独立に取替え可能な構造としたことを特徴とする替え毛式歯ブラシ。

3. 考案の詳細な説明

現在、一般に普及している手動式歯ブラシは、握り部と植毛部が一体的に結合された構造となつてゐる。

この様な従来式の構造のものによれば、歯ブラシの寿命とされている、いわゆる毛先部のはみ出し現象が現れると握り部を含む全体を廃却処分とし、新品に買い換えるのが一般の使い方である。この様な植毛部のみの寿命に対し、この部分のみの交替手段をもたない従来品の構造では、一本という単位では高額な商品ではないため、つい気軽に考えがちであるが、普通に使用して数カ月で寿命になり、交換、買い替えに至ること、更に市場

52-125962

全体の需要を考慮すると、膨大な量が消費され、省資源、廃物処理という点からも極めて不経済であり、決して好しい事態ではない事が容易に推察できる。

本考案は、以上の不具合を解消するため、握り部と植毛部とを分離し、毛先部の寿命に対し、その部分のみを容易に交替可能な構造としたものである。

図により説明すると、第1図は従来品の一例であり、第2図は本考案による一実施例を示す。

①は握り部、②は植毛部である。この握り部に対し植毛部の結合には種々の方法が考えられるが一例としては、図示の如く、オスのテーパー③とメスのテーパー④の差込みによる結合としてもよい。

更に本考案による長所は、従来品の歯ブラシは一般に使い捨てという思想のもとに設計されているため、比較的安価な製品が多く、その代償としていわゆる安っぽい見かけのものが殆んどであるが、本考案によれば、従来品の数倍乃至数十倍使

うことになる軸部には充分に製造コストをかけ、豪華に見える様、デザインの的にももつと自由に、楽しい気分で歯みがきができるよう、例えば種々の紋様を入れるとか、花柄にする等、あるいはもつと握り易い形状にする等の改良を施したとして従来品のものより高価になつたとしても、使用する側の立場からみて長い眼で見れば結局は安くつくこと、更には多少毛先のはみ出しが認められる程度になつたものを無理に使用しなくても交換用の毛先部のみを常時一定数量買い置きすることにより、気軽に取替えて使用可能になる等のメリットが多い点も見のがすことのできない長所である。

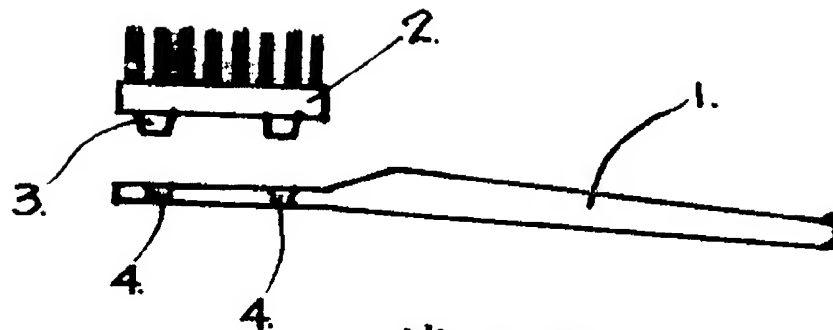
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来式の歯ブラシの側面図、第2図は本考案による替え毛式歯ブラシの一実施例を示す側面図であり、①は握り部、②は植毛部、③は植毛部から一体的に突出成形されたテーパー部、④は握り部の一端に設けられた孔側のテーパー部である。

実用新案登録出願人 山 岸 茂



第 1 図



第 2 図

125962

実用新案登録出願人 山岸 茂